

尊道秘抄

上

45

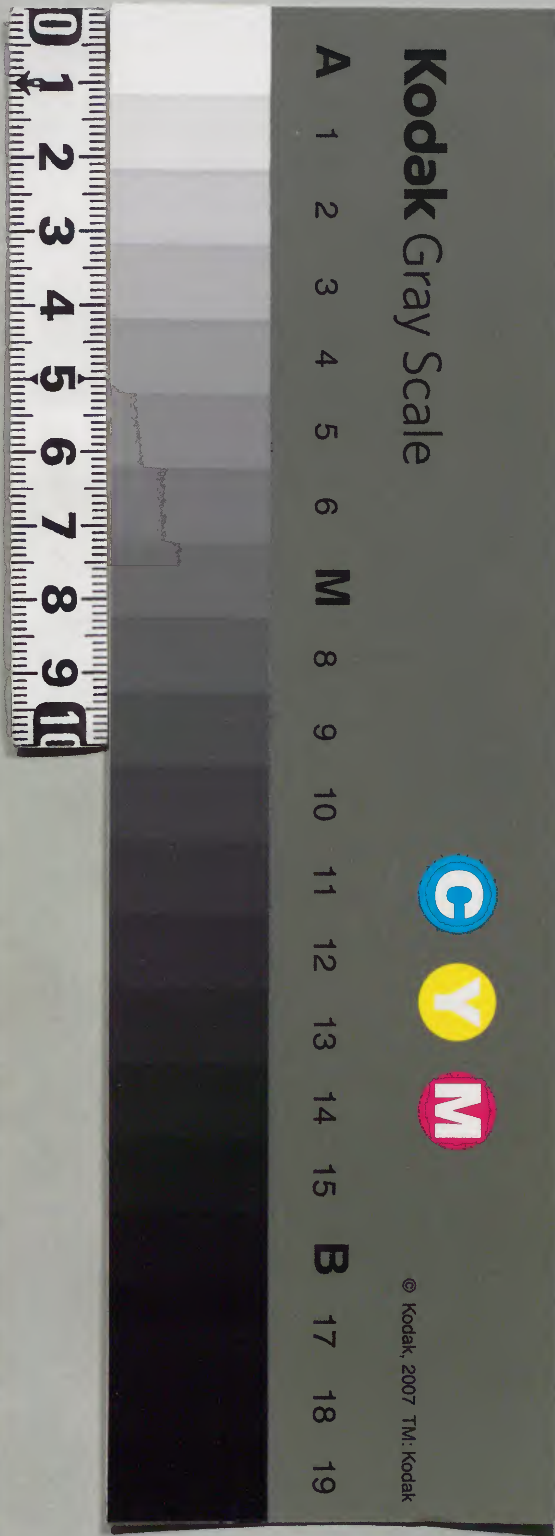
	二	七	和
	三	四	書
	六	六	門
三	五	三	類
册	架	函	號

294

庫	文	閣	內	
五		三		和
四		四		書
函		六		類
一	三	七		
八	册	號		
架				

內閣文庫	
番號和	23467
冊數	3 ( 1 )
函號	154 294

154-294



皇道神祇表之上

皇道神祇表

皇道神祇表

皇道神祇表

皇道神祇表

皇道神祇表

皇道神祇表

皇道神祇表

皇道神祇表

皇道神祇表



鷹道秘抄卷之上

目錄

第一 祭并いりてはくす事

第二 祭きぬる事

第三 おく同おきの事

第四 にととる事

第五 こづら并あやうことなる事

第六 急うろちる事

第七 同うを 後日抱けはをいふ事

をいふ事



浅草文庫

才八 鳥あつ後并 尊架つる事

才九 たつたふやう并 走んまうしれす

才十 むらうけお後同あせたつらう事

才十一 ひらら事

才十二 せむれあうきくまうし并 鷹あての事

才十三 あつたつもの事

才十四 魚とのすはらふ事

才十五 急うけあふ事

才十六 平らんせ并 貴人志願をゆつ事

才十七 山とのまはら川の急から事

才十八 田と并 大鳥を小鳥の事

才十九 鳥集る事

才廿 ふうつひるさきみ鴨あきう茶本付并 つの事

才廿一 くらせの事并 鳥だつふ事

才廿二 屋さうしれまうしにひん光あつ事

才廿三 水け并 ひねさい事

才廿四 かりけえ事

才廿五 鳥け取事

才廿六 鳥け取事

才廿七 鳥け取事

才女八をう山つゝふ屋う鳥虎山事

才女九智ねをう

才女十をうの牛此名の事

才女十一尾の名同かゝり并續尾の事

才女十二たつ此羽の名菓も籠りいけ此名の事

才女十三智をうまうら名前の事

才女十四二へ并とくく名前の事

才女十五ゆをうの事

才女十六板をうの事

才女十七智師をうの事小神と酒とじ

才女十八新見とをう事うられおまあいて

才女十九鷹毛をう名いやうと山名の事

才女二十智の名け青をうの事

才女二十一たう山をうつゝ又才女

才女二十二をうをうの羽川をう河の事

才女二十三こたらの河をう此又

才女二十四諸鳥の羽をうの事

才女二十五智れまうをうの事

才女二十六をうをうの事

才女二十七たの事あをうの事

才早八鷹洞乃事

才早九鷹の文字れ事

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

夫鷹と使ふ元来はかゝりて此乃タカ也

はたき事也鷹の乃道去氏を以て此乃也

及斗より得根本と知人稀也先叙也

提婆と云初を鳩と鷹とよりと八子變れしこの

大智世も也然は四十八鷹と云事世帯に只ふ

あはてみ細と云事い謂と云事七羽

と云事都海より十四母夜二十九尾十二尾は四

十八より七羽と曜の事より母夜九曜より

あはて十二の尾と十二天より定十二日縁より

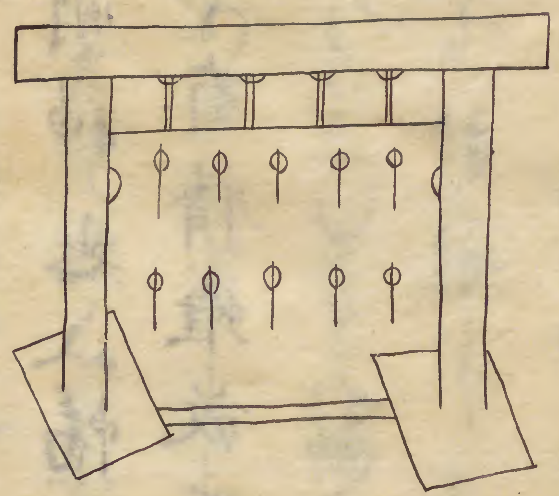
尾は及の事増長廣目より天の力を金剛

乃力以之く吾よりゆゑる大さぬと投じ四十  
八を別法院に十八して有情の仏界よを死  
鳥は終るよ川よまんをふ結縁しとゆり  
と物せふ状とく投じとくことしとる八幡菩薩の  
又人間と軍よ勝ふはわく次軍よとく  
悪心とんを信よわくして欲んとつくを  
心中物よ西誓也八幡此蓋鳥ハ誓之を代投  
と人をも軍よ小うけし何も頓悟即善提善心  
不二邪正一如也とくは空之仍信よ可作也  
也又之身お入り七羽を七難即滅と表す

都勝志七羽を七福即生以表す稀よ十二  
尾を日月と表し也鷹と守護の天ハ品沙  
門天也五穀と借く衆生くはんとて  
五穀とくは鳥は提りて悦行よとる  
不別守護神を飯防明神也八幡り所  
同意也文云 業尽有情雖放不生  
故宿人身同證佛果

- 一 架を以て天七寸六分冠及四柱乃中の太と  
 二寸五分冠本より仰々余五分八分熱れもと  
 六人二寸基法もと五分五分角も廣と  
 六寸六分角の厚方れもと角もと一もと或  
 八寸五分冠本に坪金四角柱一つ是ナリ  
 下の横本の臺乃り仰々て端と臺も揚多作本  
 形もへし柱の寸基もりとの事も也
- 一 二架乃長と一丈一尺五分坪金又つ柱の坪金も  
 同架の本に橋本等とと二人三寸五分也
- 一 結架の定けも 所々も了了打之太概括架

架の長と一丈一尺五分坪金又つ柱の坪金も  
 同架の本に橋本等とと二人三寸五分也  
 結架の定けも 所々も了了打之太概括架  
 架を以て天七寸六分冠及四柱乃中の太と  
 二寸五分冠本より仰々余五分八分熱れもと  
 六人二寸基法もと五分五分角も廣と  
 六寸六分角の厚方れもと角もと一もと或  
 八寸五分冠本に坪金四角柱一つ是ナリ  
 下の横本の臺乃り仰々て端と臺も揚多作本  
 形もへし柱の寸基もりとの事も也





一 乃すはとこ丸る〜 冠木ハ根より西結〜  
根の頭冠木此上曰結目西よりし繩と角邊  
〜 二重〜 然て結〜 下繩と根より外より  
る〜 上繩と根より内より〜 二重ゆ〜  
す上繩とハ又ある〜 結〜 二重ゆ〜  
あり此今日の〜

一 長相架の事 十代ハ不定 五代よりわ〜  
紫る〜 但根竹ハ守ハ根上冠木と結  
け〜 繩の然や〜 斗也 繩の無る〜 とも有る〜  
る〜 不書也

- 一 土架と云ハ庭木ハ常指架ありて下の横木ハ  
か〜 してわ〜 入り〜 架ハ事也
- 一 四季の架あり 春及花の木以用〜 冠木と  
結付一方ハ根より〜 夏ハ柳と用てわ〜 木此本  
を結付秋ハ楓あり根ハ木此結付〜
- 一 四季の架名 春ハ桃 夏ハやんをん 秋ハ楓  
冬ハ松乃木此と用てわ〜 木此結付〜
- 一 寄来堂殿の時此用也
- 一 四季の架と云ハ名相木の架と云
- 一 之本の架と云ハ木ハ松根ハ木此結付

一 冬や常祝きく架也冠木を梅檀栲と云  
すら也

一 三木乃架のより栲ハ栲と云ん栲ハ本  
あり冠木ハ栲也

一 縁の架ハ竹を柱冠木何道も竹也指  
きりとも云但四月五月よりかき付かり夏  
の不貴飯ノ義ハ云ん栲と云ん栲ハ本  
さりと云ん栲ハ栲と云ん栲と云ん

一 ちと架すす事野山と云ん自然あり候  
架付あり架栲角鷹ハ栲より上より架

一 ちと云んらよるくハ鷹を栲りハ架て本若  
留ハ竹架の後ハ栲と云ん

一 ちと云んれ架と云ん竹と縄とてあて結  
架乃事也

一 架の本木ハ鷹乃身寄ハ成るハ架と云  
し曰取架時も本よりと云し

一 然ハ置架ハ事水魚の架れじひを本に  
てそりたりけいよ事ハ

楓

松

軒

楓

松

紫よあふれりしむと又う退之

一軍陣めくをよ架結の敵さる方へ向て可結

頼りし小冠よと結繩と一重御く結へ  
 し架衣も敵の方へ向て結へし鷹羽へ  
 ちよく向て可結はれよやち常但條のゆき  
 此道よゆめして是のちよ小紫へし向て  
 條の架衣れよ懸くく可置又在法も方  
 り服よ結付も如例式結る  
 一送葬にたよ架と結るち本もくくあは  
 うも本の方へさひめて結て是とや小架  
 ちよ軍陣を架し紫も慈紫也ちんま  
 ちよ結る

一 之架とそハ架乃一節ふあんと一節は俣板と  
置て多を統一用し繩をともむり一節は  
くく本布木小結行く

一 けり架ハ巻付の巻或ハ腰くハ俣板用  
一 ろく架先くり同前にかけるは竹のれ中  
とめきて竹と入まりるやうにせしめ

一 名ハ巻紫の刺羽は取し木ハ松の皮と  
ひくりにてかきこ八寸二分さこ二人八寸巻と  
く数のめされく指て砂と入るく櫃く  
銀と入條一節とせこ二人一寸一ては銀

小繫乃く末乃やけりハ如常冠木乃口く竹  
釘と指く一長くあかきり此釘も付ては  
その乃くく木は入くあり

一 刺羽をくせの事腰指を二人一寸繫ハ二人也  
跡めまき置ハ一丈也七人あもすく二つ鷹乃  
時ハ冠木一人一の付ハ守くかめくせ架  
本あり

一 角乃乃鳥を作り横み人三寸豎六尺之  
寸さこ六尺放多金を是り同小繫ハ是  
とけくく作

一 神社奉幣乃ちより小鳥の奉る可敷結事の  
ら及架と社のだれより小冠本れ本と社の方  
おはる可敷結事より如常昔伽の面横も同前  
ぬる可敷

一 二人乃鷹羽下いけふ架とたてあしり押板を  
きんより玉也賞敷乃ちよりより来る可敷  
上小架と馬の白雲の庭也

才二

一 架衣の敷板乃ちより一筋の堅板ありて三人の  
二分上を竹より縫うみて衣を縫と表小

ふとく一すそいふくもあはれ縫合の全縫し  
るの二通氣可縫と社のよと三寸二分縫う  
て菊よりあり馬草やう面のより小結目あり  
し結目より上は短し下は長し熱のせよ八分  
上乃竹のきんよんよりしよひあはれし只より  
る次より衣液を柿染やれへし紫と可有  
紺酌紋とせし虎豹とせし一虎本本れ  
よるより一架衣と冠本れる一寸八分は架布  
是よりいなり

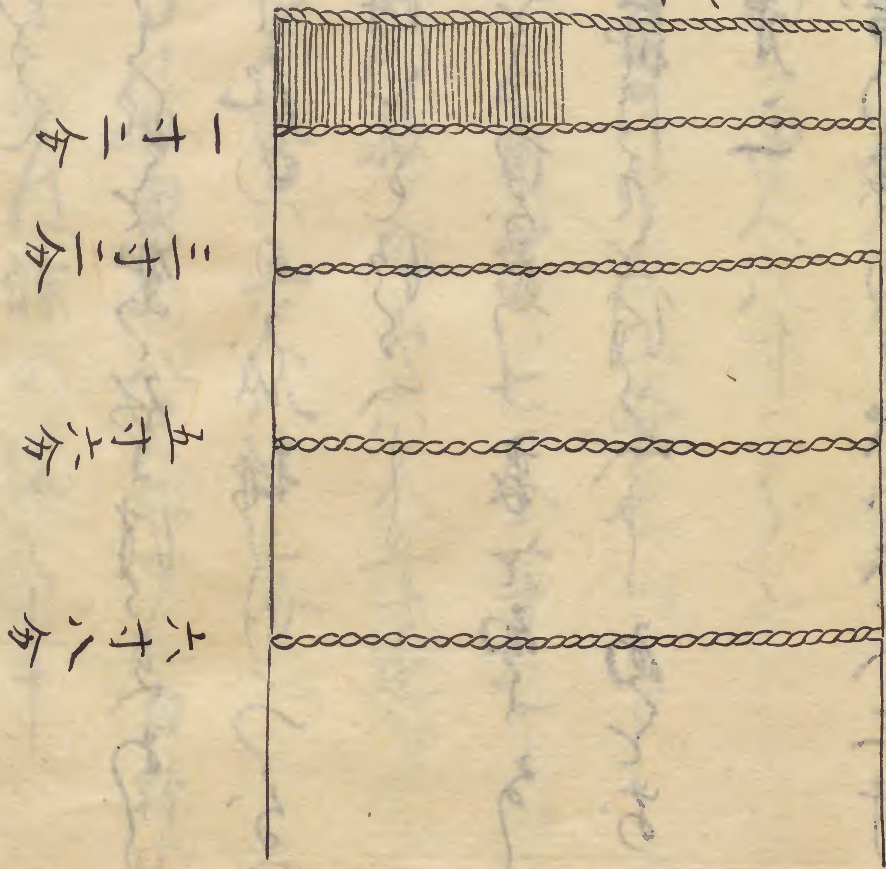
一 架乃編衣蒙藤也先蒙よ草とよ中後より中  
繩

巾にて兼れ巾と繩を縫て川西一小糸で繩  
 の三糸にて編ひ繩架布は竹の一準仍篋  
 をもめて編目五通し一を繩のきり二をよ  
 編目とつと一寸二分三の編目より一寸二分  
 四を五寸六分五の寸八分りやふ一回と並て  
 竹繩とよく深て編ひやうふやうと  
 惣乃長い布より小髷のやうに長く布  
 のいゝ草めて坪金より入し

編衣次第

委在前

惣の長さ  
 二尺二寸  
 二分



一 架衣乃事とんすゑあすのんすゑとんすゑ  
 又あやうく作らぬかともいふ口敷清沙は

かろくし湯架衣也

一 架布カヌ自然シラを皮つツ本ホりワくハ毛モはシ方ハを面  
へシくシ

一 けシくシと架を皮はシけシまりくし右ミ乃ノと角  
鶴ツルまたタのハ皮ヒ拵ツくし

一 泥障ニと毛はシくし

一 表ウラとつかぬくし表ウラと面をあへてつくし

一 自然シラ神カミはシくしとけくしと面をあへてつくし

才サ之ノ

一 角鷹カクタク乃ノ條ジョウの寸は六尺ニ寸一

一 兄セイ鶴ツルハ五尺六寸二分也

一 鸞ラン乃ノ寸ハ四尺八寸二分也

一 小男コナリ鶴ツルハ四尺二分也

一 留物ルイモノハ七尺二寸也

一 留物ルイモノの長ハ六尺五寸也

一 留物ルイモノ乃ノ鸞ランハ五尺八寸三分也

一 茶チヤ鶴ツルハ八尺二寸一分也白シラ絲イトの寸は三寸一

一 白シラ糸イト乃ノ條ジョウの長ハ三尺也

一 平ヘイ江エ條ジョウハ三尺也

才サ四シ錠テイ

一 鷹ハ長ハ三寸二分也

一 鷲ハ長ハ三寸二分也

一 鷂ハ長ハ三寸二分也

一 鷹乃天助山を以て名す

一 鷲乃天助山を以て名す

一 鷂乃天助山を以て名す

一 鷹乃天助山を以て名す

一 鷲乃天助山を以て名す

一 鷂乃天助山を以て名す

一 鷹ハ長ハ三寸二分也

一 鷲ハ長ハ三寸二分也

一 鷂ハ長ハ三寸二分也

一 鷹ハ長ハ三寸二分也

一 鷲ハ長ハ三寸二分也

一 鷂ハ長ハ三寸二分也

一 鷹ハ長ハ三寸二分也

一 鷲ハ長ハ三寸二分也

一 鷂ハ長ハ三寸二分也

一 鷹ハ長ハ三寸二分也

一 鷲ハ長ハ三寸二分也

モトアリ

小槌緒



けき草を架ゆらとハ骨く石で留

才六

- 一 巻の装束米麻の束目草をくしし是草ふ
- 一 て先以ちくひらをくしし草のきつりも搦
- 一 をきつりもくしし草をくしし草をくしし草
- 一 のりりり又右左上に成る餅袋尻
- 一 とも草の尻すし黄草時や
- 一 ともきつりふて血走とくしし草をくしし草
- 一 一筋点ある餅の装束とちきりし草をくしし草
- 一 是草と草式とくしし草

- 一 留物餅袋の装束の草鳥頭のくしし草
- 一 とくしし草をくしし草をくしし草
- 一 一回の丸巻上に成る
- 一 一巻の装束の餅袋の装束の草をくしし草
- 一 一餅袋廣くくしし草をくしし草
- 一 二筋のくしし草とくしし草とくしし草
- 一 ともくしし草とくしし草とくしし草
- 一 餅り草とくしし草とくしし草
- 一 ともくしし草とくしし草
- 一 一巻の餅袋の装束の草をくしし草



た乃のめと、はられを、さうて、り、の、て、  
さうとい、條、は、た、の、と、梅、わ、て、  
の、を、人、の、さ、あ、て、た、乃、の、ま、よ、と、さ、あ、  
は、さ、と、さ、く、は、ら、

一 鞆餅袋いせ、一、海、半、鞆、は、を、と、  
る、以、の、法、入、鞆、と、ち、  
と、後、と、法、人、を、所、と、  
や、鞆、と、は、と、し、

一 鞆と、架、と、通、て、  
と、法、は、て、餅、袋、の、  
を、画、し、て、  
と、架、と、  
と、ま、ら、な、  
そ、の、の、  
男、候、

一 神社を、幣、れ、  
と、の、の、  
紫、ハ、鞆、  
と、の、  
あ、

一 紫、ハ、鞆、  
と、の、  
あ、



見寄ありた智のいそふあしし

一 秤金と打秤よハ榜と申ふは婦寄とある

一 紫乃〜同なる也古物成り葉寄の餅しなるハ

赤乃〜紫故実し

一 粉のしね生寄一ツ紫は紫本しと餅砂也

一 紫乃の何のし見寄ありた黄鷹やうたかなるハ

一 生乃寄ハ赤本ハ紫乃の古物ありし本

一 本のもよ〜紫赤本ハ黄鷹也なる

一 夫人乃寄し吾寄と一ツ紫ハ紫乃のあし

一 貴人の鷹赤本吾寄ハ赤本なるた〜紫

但貴人其鷹赤本ハ紫てあしし比しるる赤

本ハ紫はあしし赤本ハ赤なりし小鷹紫

〜とる〜又の勢なり〜とあししハし

〜紫なり〜

一 後乃〜紫本ハ赤本ハ赤となる紫と

ししひひ〜小紫なり〜とあししハし

一 條の結と結と赤〜し是は人なる〜

一 宿山なるあしし逗留の同なる赤本紫てあししハし

〜と結ひし〜紫なる〜是はとなる

一 貴人の鷹赤用意可仕









一 條乃ゆさかぬ方のよふかてしつてはと  
るし 勢伸あしつてしつてすかぬ  
一 馬と勢と人の方とま所のきうは後候者  
勢にたうとじつめく削て教と腰よりして  
足傳袋をさうして一後とく教と後と存  
けしつてす

一 一方と勢や馬と造付く後候是を足傳袋  
と後とけりて勢と後と其存教と右のよめく  
鞭乃中らうとわらひはく右のよめははさて  
たのよめとさうと勢伸しつてさうはしつて

一 玉傳袋乃中らうと入るるはしつてさう  
一 ちうと教とよふは付かぬ教の中とらう  
しつては玉傳袋よりしつて勢伸ははさし  
てたのよめと教とちうとさうと玉傳袋は  
ちうとさうと一いつてもちりしつて鞭の  
はさしつて  
勢とらう

一 自然足草汁とてさうと入るははさしつて  
これとく依わぬ一方乃足供とよめは  
あしつてさうと一物の足供とちうとさう  
一 ちうとさうと一物の足供とちうとさう

一 狐尾の便桶（キ）如例式但鞭（キ）の中へ  
序の方紙（キ）へして尾（キ）の刷（キ）て足（キ）して  
こゝへ便桶（キ）を敷（キ）と（キ）を（キ）は（キ）る（キ）は  
こゝへ（キ）て（キ）を（キ）（キ）（キ）（キ）  
一 の（キ）（キ）（キ）と（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）と（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）と（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）と（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）と（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）

一 女の後（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）

一 狐（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）  
（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）（キ）

一鞭く事友此皮と割くコシテ角鷹ハ二尺八寸二分也

一見鷹乃鞭の寸ハ二尺五寸二分

一勢の鞭ハ二尺九寸二分小男乃鞭ハ帶ヨ用

ろゆれと柳あよしとくくハ坊とあう紙を

細くあよのしとくく入てゆと馬あうてま

ちりうと牛と並の頭乃とく中とうも常也

ふさうあるといれとまうはうとくあひが

乃いしとくう乃鞭とく

一わらじらハ黄鷹乃用之友の皮と割てあう

わて用く

一馬鷹鞭寸法結杖ハあゆとくじら乃牛と

一文字うきゆ

一早鞭のゆいやとも同但不足十はく長く寸

へゆとくあへ馬鷹ハ使付用る鞭

一しと鞭ハ養鷹のあられゆとあまはとじ

ふて用てすは回あ

一馬ととて鞭をす事するれじらハりりよと

乃鞭ハあよあうと指但る駕あらうか

一ハと使とあまは用るたれはる馬と

せらるう

一 穀乃 海草ももす いひきか所と菊座又水送  
とふり

一 黄鷹乃 時をしらあ皮とてきんじす  
用之しれり所を金とて用あり

一 鞭となるゆりとも  
口餅もよきとてうすきなるゆり

候ありてい穀うけぬみか

一 町 穀もすはていゆす豊後也中ととも  
もるし

一 鶴乃 しられゆり角形大小よひていし

いしり 穀もすやいぬきより

才十二

一 鷹 此 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞  
とてもふ小角糞ふハ守ひかわりも糞ふハ  
糞ふ及一寸二合とて鉄板のよめてまんを  
乃結として糸と好すして切つとい小糞糞  
ききてまんを人の結とて二筋とい川よめて  
信ふといかり

一 奈 糞乃 糞糞ハ白草を付る

一 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞 糞

一十三尾の装束の名今んる本装束也

一申れ尾を向せせ装束と云ふ

一町の装束のうらぐれゆき草と於板  
めしていよよりくてもれ物と云ふ

一羽をきく付又そよもんと云くの尾を記とれ  
あてよしかのうらぐれ物と云ふ小鳥計小  
可申し

一装束の装束と云ふにいふれりて多乃みの毛  
を申す扱す一回分刺羽と云ふ

一のころ装束と云ふのころれのもの故と云ふ

まんしてこれ尾重なる也

一のころり装束と云ふのころ装束と云ふ

一きんらん装束と云ふの草乃よにんて

〜と二きりひよと云ふ

一みれ装束と云ふのころりてす

一羽とと角装束二寸五分或ハ二寸五分をさ

一寸五分装束ハ一寸五分は何と云ふりあ

一鳥生乃羽を徒に云草と云ふ

一皆物羽と云ふ装束也但云装束と云ふは

大名是末に惟中のためと装束と云ふ也

一 祢と須草の中末とあり 廣ふ切く末と鈕  
一 祢と須草の中末とあり 廣ふ切く末と鈕  
一 祢と須草の中末とあり 廣ふ切く末と鈕

一 尻俵 一 一尺二寸五分 一 一尺二寸五分  
一 何れも名也 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは

装束の惣名也

一 鈴板の長さ 婦鷹ハ一寸五分 横八分 或ハ七分  
一 上とせし 一寸五分 又ハ一寸五分 横七分 鷹ハ  
一 長さ八分 横六分 何れも 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは  
一 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは 尻俵と云ふは

と係く初とふし

- 一 見物より作りしとて二寸五分の長さを  
切てらあめり世に二寸五分の長さを  
二寸五分の長さを  
一 勢より長し二寸五分の長さを  
とての上より作りしとて二寸五分の長さを  
もつて見物もとて二寸五分の長さを  
袋穀決<sup>ナ</sup>々も作りしとて二寸五分の長さを  
一 穀ハ々の穀をふし  
一 穀板と作りしとて二寸五分の長さを

一 初と係と終りも終りも終りも終りも

才十二

- 一 初と係と終りも終りも終りも終りも
- 一 見物より作りしとて二寸五分の長さを
- 一 勢より長し二寸五分の長さを
- 一 穀ハ々の穀をふし
- 一 穀板と作りしとて二寸五分の長さを
- 一 紫草ハ年にもなる用し
- 一 見物より作りしとて二寸五分の長さを





のハ籠と云也

一 用佐古用佐鞠と云を身繩と云也用佐鞠

と云ふはこれに書て可也也

一 尻繩と云一編と云之は下編と云ハ物ノ

と云て者ハ

才十五

一 尋と云は流る山流と挑く尾流と云一是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

一 公と云は毛人の身小儀様と云也是云

新と云は毛人の身小儀様と云也是云

と記すを以て之を 行ふに非

と誦くぬきしよりそをゆくも死よも利  
くれらるゆへに併袋より併袋に入る  
一 三百たうとて仕め及併袋より是れも即ち  
も小口餅と稱之九多と云ふ也

一 宿め(お)ふ併袋より流るりやうやう  
是の事此の今日に...  
と云ふ事此の今日に...  
と云ふ事此の今日に...  
と云ふ事此の今日に...

鷹と人よみより次先面次身次併袋  
次後也たた志羽や尾よしらと誦て刷極  
めくみよる也このしらと云ふ是れ鷹と  
誦と所も也此して後なり

一 二の先なり見せ中流先面流るる  
後より併袋とみよる也刷極  
一 三の先のきりんやも夏も川面を  
ほと見せ中流くも流るる也之後部  
と云ふ也刷極のちよ

一 四の先のきりんやも夏も川面を

一 小出と申一ととさうなれども時々の  
穀とけよ申せり乃徳ありともたのひり  
削てみよと又穀と菊尾と記しておく  
一 物見せ申す候那清らとじらわめて身あふ  
あく尾と削るみよと

一 公家の方候之官領は思せ申す候はれども  
初務らと穀とあてては申中へとてかきや  
但島山殿細川殿より身あひあてるとも  
一 ちりひきとにらるを申すじらと削りて  
そはのちあひらと徳候とてたのめあて

一 中つと申す削りてんせとてとて又  
とて徳丸の條ととてとて後あらとたのめ  
一 貴人志鷹彦次條の徳と長くとん昔鷹  
とと人へんとてとてとてとてとて  
ととと  
一 徳の初務と春指してあてるとて  
ちり何の社の尼姑とてとてとてとて  
削りてとてとてとてとて

才十七

一 山侯の事申す候とてとてとてとてとて

一 雛の雄のともやうな羽をいふは目とあてゝと  
 して翼と頭とつよよく後とて男結み  
 一 五寸分をく二物とつよよくあてゝありし  
 て一じとひいてゝまづうごゝまゝに切りて  
 一 のつゝはぬとく一又まゝに刀よりき切らす  
 一 しのぶとせはぬとす後の日とあてゝは  
 一 めつとあてゝはぬとくまづりとも  
 一 雛ふとら同ハ雛をぬ懸れふひとく  
 一 きやう又頭きはとらたはまうて懸る  
 一 雛の雌のともやうな羽とらて懸る一翼や頭

一 を二つふねくとんぶ結みして四寸二分置て二  
 一 箇とつよよくあてゝとく一結してゝは  
 一 二つぬとふと四きはやう目のあやうや頭と  
 一 ぐはうちく亭てゝとく  
 一 山供く事秋ハく侍つる中式之をまはらう  
 一 留物の扱ゝる雛の山供くも後乃預きりめて  
 一 其結よこして六寸二分とく二物とあて  
 一 たへありとく一結して其余之すよ寸四が  
 一 きはとらとくあてゝ  
 一 雛の扱ゝる中事預きとく結よ五寸



一 ともゆきと山結をたしとらふてつとせ  
しとせしとらふてつとせ

一 鶴のむね結と目似ていふとつとせ結せ  
所州結と目似ていふとつとせ結せ

一 内裏仙洞へ春をれりせやと山結れ結せ  
也とせのすはらぬとら

一 二家とす候武衛へ進とらぬのむね候頭き  
しとせのしとせぬとらぬとらぬ

一 光の山結とらぬ是のり頭とていふとせ  
つとせとせとせとせとせとせとせとせ

一 ともゆきと山結をたしとらふてつとせ  
しとせしとらふてつとせ

一 光の山結とらぬ是のり頭とていふとせ  
つとせとせとせとせとせとせとせとせ

一 光の山結とらぬ是のり頭とていふとせ  
つとせとせとせとせとせとせとせとせ

一 光の山結とらぬ是のり頭とていふとせ  
つとせとせとせとせとせとせとせとせ

一 光の山結とらぬ是のり頭とていふとせ  
つとせとせとせとせとせとせとせとせ

一 光の山結とらぬ是のり頭とていふとせ  
つとせとせとせとせとせとせとせとせ

一 虎が如き

一 犬の尾を切る。虎は尾を切るの繩を以て  
のくちやす法をいふ也

一 虎一耳と云ふは二つの虎の耳を以て一つの虎に

一 犬の尾を切る法を以て虎の尾を切る法

一 虎の投を以て

一 足踏れ下す犬の尾を以て虎の尾を切るの

繩を以て一上の法を以て虎の尾を切る

一 虎が如き

一 虎は如き

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 虎の尾を切るの繩を以て

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 虎の尾を切る

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 虎の尾を切るの繩を以て虎の尾を切る

一 鴨乃田結くし 葉を頭より五寸五分

一 小鴨 葉同丁は結よ同

一 小鴨 葉同丁は結よ同

一 小鴨 葉同丁は結よ同

一 五位小鴨 然候 頭きく五寸五分

一 葉く二節と一つを結くし一結し

一 葉余かよと一つを結くし一結し

一 葉余かよと一つを結くし一結し

一 青鴨乃もさく 頭きく五寸五分

由くして一結くし一つを結くし二節

一 葉余かよと一つを結くし一結し

一 葉余かよと一つを結くし一結し

一 青鴨乃もさく 頭きく五寸五分

一 葉余かよと一つを結くし一結し

一 青鴨乃もさく 頭きく五寸五分

一 葉余かよと一つを結くし一結し

一 葉余かよと一つを結くし一結し

一 青鴨乃もさく 頭きく五寸五分

一 葉余かよと一つを結くし一結し



一 爲く惣柄頭きしひしれ繩を二重に  
 一 庖丁刀れけつと結しとろりしと繩  
 結しと七寸二分重く又ちり結しと余  
 一 文字より切し

一 川鶴を惣柄しと事柄のたう小繩と入る世が  
 しく若繩としく毛と分てとく見りす小  
 後子すの繩より紙より紙より紙より繩  
 小結しと結しと爲りし御りしの紙はと  
 方外しと入るしと爲りしと  
 一 惣柄葉の繩めく是よりけしはきりめく

一 一の傍く是としひのりきと川を頭けて庖  
 一 丁結しと上と繩結しと一し寸法ある  
 一 一回惣柄柄のりきと惣柄は惣柄しといけす  
 一 一葉の惣柄葉の皮を削ぐ頭きと二重  
 一 一ゆきと包丁刀のけつと結しと一し寸法  
 一 結しと一し寸法あり結しと七寸分あり  
 一 八寸分ありと結しと一し寸分あり  
 一 一文字より切  
 一 白鳥の惣柄は惣柄は惣柄は  
 一 一葉のりきと惣柄の雄雌は惣柄の紙れしと

一 糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸  
寸法同

一 黒鴨と春のあまさへけり糸  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同

一 糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸  
二寸五分余り糸一寸五分余り糸一寸五分  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同

一 糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同

一 糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同

一 糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同

一 糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同

一 糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同  
糸と皮よるさへけり胸を丸とけり糸寸法同

一 鷹は大鳥を小鳥にけとまはるるなりと  
大鳥にけ也 鳥は下の小鳥をけとまは  
一 鶴は砂に鳥の友の皮と刺ぐ頭きくと  
ふとふあして一筋と縄の下へあてけあは  
中へ入く川志のく一筋してを余の千二  
さく一つあるたへぬくしとひしとす  
一文あるは血は秘事極也  
一 鷹の尾とあしはまもくもあはるる  
たのぬきしれらくさよとあはるる  
と此頭とたのぬきのさぶ道りたれと  
人あへるる

廿十九

一 鷹の鳥を春の梅 梧 楓 秋の楓  
あは松 楓也 又 櫻のあはとて用とて一  
夜ふると下の四口は一人も夜を月あへ鳥  
二つをさよ。及まを唯とふは行也さるる  
上よす人し 鳩のりも 柳のりも 石行也  
けふた何れも 鳥のりも 鳥のりも 鳥のりも  
らふし二つをさよ。及まをさるる 鳥のりも  
さくしとあはるる 鳥のりも 鳥のりも







かゝるた可成との方ゆらり一結先  
中一も上下一寸と切るとおのり多  
けいも本をねつて可置但おき雀の意あらん  
あり意を帯いきたなうたよこある  
突おれものりて一結をうそふと折ふ  
回蓋の下に信金とて二人針をさし  
まろてい短あうり空之又紙をさして結  
とて昔とておしこはるもね下とて  
結とて候らとてさる下 宛せん毎よ  
一信をさしてんをぬる一又 雀をさす

鶴鳴と扱うゆる事 一うわらう下二日月  
扱く二日月とて二日月下二日月と扱う  
とつり時をりふらり扱く二日月り扱る  
ゆる行の意所也

一鳴と扱くゆ鶴よ回か七八月とて  
ゆし竹と扱て折れをと扱清く也折乃を  
二つとたたのねよ加く扱こわのえは  
く思ひわらふものゆかぬよ者一鳴  
鳴なるあまた折るえふすうやう但鳴と  
一鳴とてゆらり事とて一鳴とてゆらり也

一物と投る竹のうらよ葉と残る事四月五  
月ふらきうたり竹を以ててつる  
枝とてあやうに葉のふく一紙と  
してして結し

一物と投る竹を花の事竹或葉を  
一可投竹のふれ葉をうらよ  
ふらきうたり一物と投る  
ふらきうたり一物と投る  
ふらきうたり一物と投る  
ふらきうたり一物と投る

一物と投る竹のうらよ葉と残る事  
四月五日  
竹を以ててつる  
枝とてあやうに葉のふく一紙と  
してして結し  
一物と投る竹を花の事竹或葉を  
一可投竹のふれ葉をうらよ  
ふらきうたり一物と投る  
ふらきうたり一物と投る  
ふらきうたり一物と投る  
ふらきうたり一物と投る



下を考へてし所をなれ法りて一法也  
酒をうすせ鳥一羽のりある一法あり有  
るにたそて如し

一 弓の向ふ鶴を雀の捷より上一番に捷細  
一 公家より武湯へ奔る鶴雀の捷や弓の  
捷候より回ふし但只をふる水にまきせす  
こゝのつゝめと回ふ也

一 陣陣へ奔る鶴を雀の捷より上りて如し  
但より夫より乃切口より如し一曰ふに如  
捷神の如く穴下れ多きとて一曰ふに如し

下一人之軍也

一 鶴を雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し

一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し  
一 雀の捷より上りて如し



鴨と扱ふ 柳葉と扱ふ

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一斤羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

九乃一は 鴨の羽を扱ふは

一は 鴨の羽を扱ふは

一は 鴨の羽を扱ふは

一は 鴨の羽を扱ふは

一は 鴨の羽を扱ふは

一 鴨と扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 鴨の羽を扱ふは 鴨の羽を扱ふは

一 雛乃らと終いたの服と九分はつ包と雄ハ如  
いなり

一 雛の雌ちうもは右の服と九と包と有也  
秘しりあるたまたた包のありをとりする  
可き山位ととも包しりねも秘しりなる  
たまたた包ととも包とち家事  
と次

一 雛乃らととも雛の雌唯より  
一 も踏め包と終いたの服と包の包  
一 鳥のくもえんの服と包九と包と包と包

一 とかうなり

一 鳥乃九とともくも包と終いたの服と包  
うりうりうりうりうりうりうりうり  
包ととも包と

一 毛包の事九分とすうり包と包と包と  
いふも自然なるありに人ま新をありと  
羽下うり包と包と包と包と包と包と  
包と雛包ありと

一 毛包と鳥包ととも包と包と包と包と  
ととととととととととととととととと





引ひよて白みりさすも也 海よるもなや  
磯を申す

一 合虎を体全前へもるは是よる細じり也  
らる勢とよくしてとや

一 ぬ尻を細い水引をしてと也

中廿二

一 雄の尾をさういさうのちをさつりて至  
ら守下八寸也 節よりとよめ及とさるし  
研地同か

一 兎の尻をさういさうのちをさつりて至  
ら守下八寸也 節よりとよめ及とさるし

一 鶴のうしハ殺るは鶴鴨を同を殺るうし  
とて例也 おれ

一 鶴のうしハ殺るは鶴鴨を同を殺るうし

一 鶴の鳥と申すはうしとて是はあつては  
ぬし 経のちを体よりしてとて 節より  
らるは細切

中廿三

一 水筒のうしハ殺るは鶴鴨を同を殺るうし

一 水筒のうしハ殺るは鶴鴨を同を殺るうし  
早と上下の節は外よるもさうりふら出  
て元とて 頭よるは尻とてとてとる也

中は節や印れり寸ちりも竹と同等  
響ふ水何れもくくく入あり節の向ふ  
う庵中の節ふ仲間のくく穴をちりてあ  
りか入とくくく石釣内を果んとし  
きりてむく柳と丸く他く可指あり竹の枝の  
外をくくくくく

一 催子樂の長さ七尺五寸又五尺七寸又二尺  
七寸と海の上を舟もくくくひのやがれと  
ふくくくくくくくくくくくくくくく上  
くくくくくくくくくくくくくくくく

一 初孫をい事金めてくくく又葉の傍  
ふくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく

針とくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく



校つる但ふ旬の秋小の徳の秋をさす

一 將軍の心狩杖を桐みそ朴と御用もさす也  
久ち名いぬとてと可もさす

一 五十有乃人の狩杖と云はるる刀杖と色吾  
杖と允とさすておと人さすつとさす  
うしりさす

一 狩杖と云はるる切く月の杖とさすりる  
しは素子竿とさす并あとの事也  
一 狩杖と云はるる杖とさす

一 舟女五

一 雄乃徳丸海の事山徳とたのふさす

てあは海とふたなりは山徳とさす

ちしは徳丸此はよ徳とて我もあてさす

せとさふあはあはあてさすし徳丸さす

徳丸さす

一 舟女あはあは海とさす丸の常王さす

とあはあはあは徳と人の方へ成とさす

さすさすさす

一 時五位小徳丸さす

一 鷹の海やあは徳丸さす丸房は是をさす

し指の傍初より一向極ふしと極ふしと極  
取人を極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一鶴の海しやふのふとて思はれおとく

海と極ふた乃と極ふしと極ふしと極ふしと極

魔と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

世故と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一鶴と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

らと極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

可と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

と極ふしと極ふしと極ふしと極ふしと極

一 雄と雌の区別は、雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。

一 雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。

一 雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。

一 雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。

一 雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。

一 雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。

一 雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。雄は尾の途中に尾の毛を垂らし、雌は尾の途中に尾の毛を垂らさない。

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

一 御名を家下りにさして

誓乃何毛あらば

一 誓の申春好むも也 誓乃何毛あらば  
うすうしくていふれくありあふるるれを  
乃て紙針よけておくれあめくさくふら  
絶くとりらるるのまよふとすてつよれて  
金中つらんあつて決の信よあ路の  
まうとあつていふれよいあめくさくふら  
乃てあつていふれよいあめくさくふら  
の中をちりちりいふれよいあめくさくふら  
乃てあつていふれよいあめくさくふら

鏡子と信をあらたしむるは  
日影の終つて

一 誓乃珍毛大の終つて  
春の毛けいひらき  
誓乃何毛あらば  
乃てあつていふれよいあめくさくふら  
乃てあつていふれよいあめくさくふら  
乃てあつていふれよいあめくさくふら

一鷹油少そほりて身七つはるる  
しゆん

飯命曰天子 本地親世音 馬度底生故

善照四天下 一林一孔者 破眾涂若惱

現世安穩樂 修於正念

あうも此又留く 山部とくし 是く是是是

とくしてに けりしりしり 是日此のあまの

てや報とら後振く 白鷺乃羽の飛大の鼻

とくす人ものては 年あまの けりしり 南無

山神あまの土神あまの水神 敬供再拜とくし

ら後留く報と振く 胆くもも 是く大の此

とくからしりしり 又くしりしり 也く大の此

るも 誓す 罪くあまの 次報へ入る 大の此

罪く報へ 是責子又大の 此く外 是責子又

大の 此く 罪くあまの 入る 是くあまの

ら 此く 罪くあまの 入る 大の 此く 罪く

く 是く 又く 罪くあまの 入る 大の 此く 罪く

あまの 此く 罪くあまの 入る 大の 此く 罪く

入る 大の 此く 罪くあまの 入る 大の 此く 罪く

大何黄子...  
...  
乃大何黄子...  
...  
五戸...  
...  
夜...

先救...  
...  
人中同證...  
...  
一人...

ゆぶていふ乃むかのふひうむとまむく白麁  
乃羽飛火の鼻にや人馬の足は午島ふまは  
神を好く南無山神もせ水神もせ云神教供再  
評とら夜留芝の上よきの野毛も上毛も毛  
とがじらうて山神も午向もしてきてもつた  
うむ鳴る神もすうむな神教のまもも  
うむ鳴る神もすうむな神教のまもも  
らうよはもすうむな神教のまもも  
けうももすうむな神教のまもも  
めらばはまもすうむな神教のまもも

ありふか貴子流まされし山乃もろ神取う  
しんまももすうむな神教のまもも

一 鳥乃けものうしんまももすうむな神教のまもも  
つらまももすうむな神教のまもも  
記しんまももすうむな神教のまもも  
すうむな神教のまもも  
すうむな神教のまもも

一 志同を卯月八日小南一記唯よありまもも  
いしんまももすうむな神教のまもも  
けうももすうむな神教のまもも



定家

高麗より八日知る一乃日あれし也

たうしんしん乃るしんしん

一 毎年鸞使知付野々也く山戸事柄乃具  
 校とて日玉女乃方く白く一河立く高麗  
 黒原く一七を鋪て白餅 高麗の酒  
 と物く白鷹乃羽そ花火の鼻穿人高麗  
 是ハ平安よ仲しし先後ハ南無少神も重  
 水神南無土神敬信再拜とら夜唱しけ  
 高麗の鷹師大釣童子大まくと高麗の  
 小い人へ庚なるくす糖のハ朝とて日也高麗

高麗の言りし事

一 兎乃山戸事 高麗の事とて之分切く事ハ  
 高麗の事 高麗の事 高麗の事 高麗の事  
 玉女の方く高麗の事とて之分切く事ハ

一 九月九日高麗の事 高麗の事 高麗の事  
 高麗の事 高麗の事 高麗の事 高麗の事

高麗の事 高麗の事 高麗の事

高麗の事 高麗の事 高麗の事

一 日のおま山戸事 高麗の事 高麗の事  
 乃高麗の事 高麗の事 高麗の事 高麗の事

山神や留也たももん日可留

一 才廿九

一 才子と云 誓の角誓うるんらうとて足踏を  
る也日の毛をうすくいふも骨ゆ〜と  
縁らよめして根よまうりちねてぬ〜  
あさうちく〜といふ〜  
つらんおとあ〜  
あはれと云ふ也

一 才日胎ハ云 誓うるんらうとて誓うりちね  
是え誓の〜ちく〜いふ〜

一 才たの〜と云 誓うるんらうとて骨ゆ  
〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜

一 才誓ハ云 誓うりちね〜と云ふ〜  
目の余〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜  
物アリ

一 才〜と云 誓うりちね〜と云ふ〜







一 菓朽を驚かすあり

一 菓朽を驚かすあり

力二寸

一 角響乃り毛の赤とけつれ色乃り

一 足響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 毛響を驚かし毛の赤とけつれ色乃り

一 輪と意しし桃記留れはるわし  
 一 けう生よとけうけうのけうけう  
 一 地ハ高あけりし又毛も尾羽も  
 一 白く越るし  
 一 大黒生さ生さみ  
 一 小黒生さ生さみ  
 一 大眉白さ生さみ  
 一 蓋生ハまこ白く小頭ノ毛小  
 一 白く霞粉と

一 一有生さ生さみ  
 一 一鳴生さ生さみ  
 一 一紅葉生 乱生 丸生 十有生  
 一 鷹代尾名 鈴身 多物 鳴尾 鳴羽  
 一 小石所  
 一 鈴身と鈴然と  
 一 上乃尾と装束と



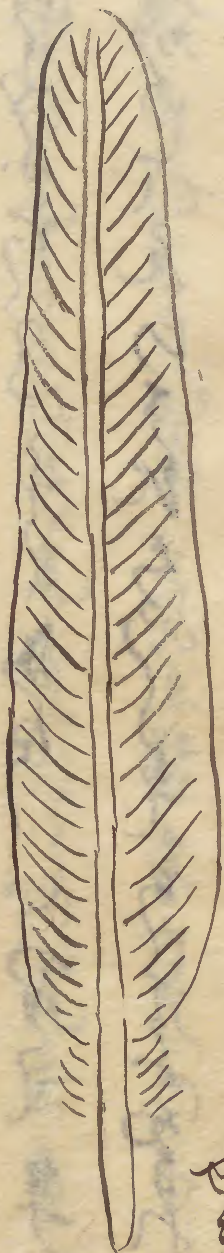




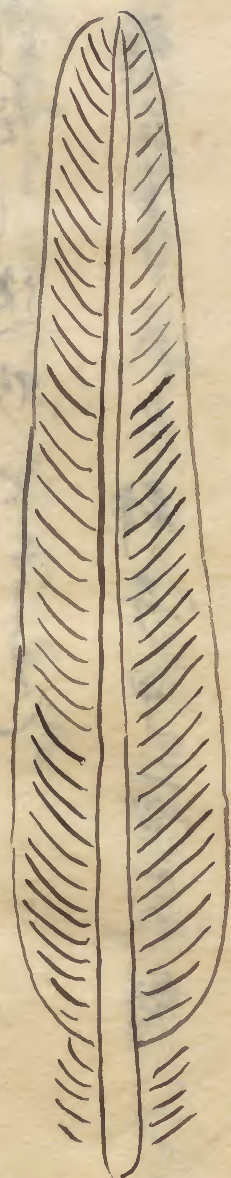
就尾



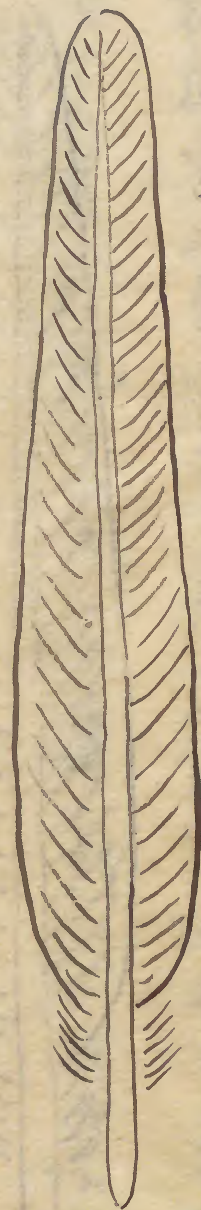
およ



おしり尾



おしり尾  
おしり尾



小尾尾



鳥の羽



鳥の羽



鳥の羽



鳥の羽



一 逆生尾上乃尾下は逆生尾

一 逆生尾上乃尾下は逆生尾

一 白尾あり鷹乃尾は續身尾魁一

乃白尾あり續身尾魁一

流石守行幸の御鷹石山と云ひて

色あかりたるは源政頼以上

白尾あり續身尾魁一

みるべきなりと云ひて

河内高の御鷹

二月乃尾とれ雪を

一尾如鏡時其石并其色一似也

此何なり 其色尾より 鏡也 但黄髪不限

羽羽羽羽言春小鏡也

一鏡尾翫と云は初ま小鏡乃唯是尾より

多脚と鏡也方乃其色一より一より一より

より一より一より

一尾如鏡春小鏡なりと云は一翫の

一より一より一より一より一より

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

一尾如鏡時其石并其色一似也

山川小より其色一似也

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

中二十二

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

小羽と云は一似也

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

一尾如鏡尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾

一 乱原平又ハ頓頂毛乃云鼻毛ノ事也

一 重氈カクモ雨履乃鈴トシ針押毛カ云ハ鈴  
カクモ乃毛同ノ也此板の上レ毛ノ所ヨリ切  
毛也

一 愁毛<sup>ウレ</sup>海世毛取毛<sup>ウレ</sup>事<sup>ウレ</sup>一カ毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>  
額乃下青筋の根ノ毛ノ事也此毛カ云

カ<sup>ウレ</sup>髻カ<sup>ウレ</sup>一カ毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

カ<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>一カ毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

一 髪ノ事カ云<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

一 髪ノ事カ云<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

一 髪ノ事カ云<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

一 剃毛乃唯毛ヲ引物毛トモ同事ナリ翼ノ

下股ノ事也

一 蓑衣カ云<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

カ<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>一カ毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

一 呉服乃毛帷毛トモ云上ノ事也此毛

カ<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>一カ毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

カ<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>一カ毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

一 腕上ノ毛乃小臂ノ毛ナリ右は右ノ腕

カ<sup>ウレ</sup>カ<sup>ウレ</sup>一カ毛<sup>ウレ</sup>カ云<sup>ウレ</sup>同<sup>ウレ</sup>

一 變細しきそ羽節 崎れ事し 二つとせぬ小羽  
 一 くらいつとら羽傍のしりぬり くらいつたを右  
 としぬれり  
 一 旧毛とせぬり 男小羽 服よまきき  
 一 羽柄代毛とせぬ小羽 可とせぬしりしり  
 一 羽柄ひの合目乃事し 毛皮言ひしり  
 一 栗朽毛とせぬ山毛の毛同し 黄羽の何毛  
 一 尾の毛とせぬ小羽 胸ふとけ餅を  
 とら栗翅をぬい 又しり 新毛とせぬ角  
 一 尾乃とせぬ

一 かりり毛とせぬ 岸の毛同し 也 頸毛とせぬ  
 一 山トとせぬ  
 一 せとせぬん毛とせぬ 毛とせぬ 毛とせぬ  
 一 皮の毛也  
 一 羽葉とせぬ 羽根とせぬ 小羽  
 一 くらほとせぬ 毛とせぬ 小羽 毛とせぬ  
 一 友とせぬ 毛とせぬ 旧腹とせぬ 毛とせぬ  
 一 柄乃毛とせぬ 経袋とせぬ 羽の毛とせぬ  
 一 毛とせぬ 毛とせぬ 毛とせぬ 毛とせぬ  
 一 柄の毛とせぬ 毛とせぬ

一 特毛 少いハ 暫ク 毛根ノ 生ル 毛ノ 毛ノ  
一 市川ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 五月毛 六月毛 乃 毛ノ 毛ノ  
一 暫毛 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ

一 尾ノ 生ニ 生ニ 生ニ 生ニ 生ニ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ  
一 尾ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ 毛ノ

何れもいそひきふとく

一 浦舟の鷺とてあまのそと小田守に似て

しふれつるねえかきと日か也

一 まねりのたうとていあ女の鷺とていあ他

けりてそなく尾とていああものたうて

一 架居た鷺とていああ女田家小架よねたに

子候し尾と一枚よたうて架よとていあ

子候とていあ

一 鴨居の鷺とていあ架とていああ尾と

ら候とていあああ候とていあああ候と

一 尾とていあああああ先胸とていああ

ああああああああああああああ

ああああああああああああああ

ああああああああああああああ

一 尾とていああああああああああ

ああああああ

一 鷺の首初とていああああああああ

ああああああああああああああ

ああああ

一 鷺ふ刀毛とていああああああああ



一 鼻の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物  
も鼻の毛も剃らざりしも鼻根を剃るは  
常なり

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物  
も鼻の毛も剃らざりしも鼻根を剃るは  
常なり

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物  
も鼻の毛も剃らざりしも鼻根を剃るは  
常なり

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物  
も鼻の毛も剃らざりしも鼻根を剃るは  
常なり

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物

あらずし

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物

あらずし

あらずし

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物

あらずし

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物

一 室の毛を剃るは世の常なりと云ふもあらずし一匹と云物

あらずし

一 指の根より  
一 地より  
一 きり  
一 膝より  
一 身  
一 後

の事なり  
一 併  
一 眼  
一 眼  
一 山  
一 ひ  
一 一  
一 一

一 呀門ワカの額乃半也ウツテころんと

一 小礮コウ及股マの石イシ

一 括カク若ニシ然ニシ凡ニシ折セ凡ニシ為ニシ搦ニシ子シ曰ク也ニシ也ニシ凡ニシ也ニシ

一 折セ凡ニシと解トクもこれ凡ニシも鳥トクもトク也ニシ

一 牙キバ二十四ニ十二ニ類トク也ニシ

一 大オホ鷹トク部トク 小コ鷹トク部トク 鷹トク部トク 真マコト部トク 海ウミ部トク

一 智チ部トク 確コト部トク 鵜ウ部トク 鵜ウ部トク 凡ニシ部トク 鳥トク部トク

一 鳥トリ部トク 已ニシ上ニシうけすトク也ニシ

一 五イ方ニシ乃トク也ニシ

一 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク

凡ニシ部トク

一 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク

一 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク

一 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク

一 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク

一 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク

一 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク 凡ニシ部トク

一 正月トク八ニシ辰トク日トク 二月トク八ニシ戌トク日トク 三月トク八ニシ申トク日トク

一 五月トク八ニシ子トク日トク 六月トク八ニシ酉トク日トク 七月トク八ニシ未トク日トク

一 九月トク八ニシ寅トク日トク 十月トク八ニシ亥トク日トク 十一月トク八ニシ戌トク日トク 十二月トク八ニシ巳トク日トク

一吉日事寅申也一生凶日事午未自此日迄  
驚お九事とせば午未日初年未日  
列らけ日迄也

一 月三十五

一 驚乃所衣の事角驚毛搦も一丈八寸布  
あまやとくし布れかひあり也

一 足踏驚乃衣を一丈二寸すよく一衣を  
踏ハ衣と見し唯生れ驚乃ハ當也後も  
折添也

一 套驚の所衣ハ寸法同前日衣と見し

一 驚物若川衣ハ驚乃紅梅の衣なり

一 才二十六

一 何板を寸法の事足驚母驚乃ハ一丈一尺  
二寸ゆらこ五寸ハ解未明板なり  
小形ハ足踏乃ハ五寸二寸横六寸ハ世驚の  
くもく一方ハ作

一 足踏驚乃何板も古同分梨付未と見し  
一 何板とくわしと見え何作板なり

一 菱何をくわしと見え何作板なり  
あさ久そこれ何とけりば

一 何はそまハワノ絶ちありてあそ  
餅と入る也何箇ハ川物とて毛竹とて  
かつここのけらてし何と入る何合ま  
かまハかしし何何可也

一 鶴陽杖ハたハ水飲時ハ一木ハ陽杖とハ  
いふれ人ハ此前ハ毛竹とつて何と  
ししきそまと吹す

分二十七

一 鶴鹿とて人ハ音ハ何と何と何と何と  
何と何と何と何と何と何と何と何と

一 何と何と何と何と何と何と何と何と  
何と何と何と何と何と何と何と何と

一 何と何と何と何と何と何と何と何と  
何と何と何と何と何と何と何と何と

一 何と何と何と何と何と何と何と何と  
何と何と何と何と何と何と何と何と

一 何と何と何と何と何と何と何と何と  
何と何と何と何と何と何と何と何と

自然よりし明らけのゆゑに人を箱詰りしふ  
ても俄のげん扇りてしとくくつて也 然れ  
んを電燈をくくし小神くくくくくくく  
とくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく

一 足智強能をば人くくく小神をくくくく小神乃  
神凡のくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく

一 鷲小男鷲 鷲鷲 善提雀よりくくく足鷲くく  
鷲のくくくくくくくくくくくくくくく

身二十八

一 折也くくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく

一 同い心ゆすすし一方を能くもつて一方  
 いてきりぬん男を抗へしは前後も多し  
 内（内）試りをもししはれあふはるもさうい  
 り下れ毛と馬也後乃也来ふと云い其端の  
 上の毛ぬきたるはれあれぬ程を身より付  
 きてたぐすも端乃毛と及ほせ毛のしりは  
 毛と然毛とさし  
 一 鑄造調一鑄造却と云事互初と云い  
 鑄造と云いぬとさし乃と云い其身と  
 一 けしはれぬと云い其野と云い其二つと云い  
 一 ぬぬと云いぬしと云いぬぬと云いぬぬと云い  
 一 とと一併小化と云い雀と云い其のつらぬと云い  
 一 しぬ五と云い其のつらぬと云い其のつらぬと云い  
 一 きささ（ぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云い）  
 一 ぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云い  
 一 ぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云い

一 同い心ゆすすし一方を能くもつて一方  
 いてきりぬん男を抗へしは前後も多し  
 内（内）試りをもししはれあふはるもさうい  
 り下れ毛と馬也後乃也来ふと云い其端の  
 上の毛ぬきたるはれあれぬ程を身より付  
 きてたぐすも端乃毛と及ほせ毛のしりは  
 毛と然毛とさし  
 一 鑄造調一鑄造却と云事互初と云い  
 鑄造と云いぬとさし乃と云い其身と  
 一 けしはれぬと云い其野と云い其二つと云い  
 一 ぬぬと云いぬしと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云い  
 一 とと一併小化と云い雀と云い其のつらぬと云い  
 一 しぬ五と云い其のつらぬと云い其のつらぬと云い  
 一 きささ（ぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云い）  
 一 ぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云い  
 一 ぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云いぬぬと云い

一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる

一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる  
 一 山をめぐりてはるかに見ゆる



一 更相鷹ありくまれとくまの蒼鷹れ其名也

一 若鷹 カイトリヤイ 海鳥也 言鷹也 殺氣 サツキ 頸肩 ケイケン 良鷹 リヤウヨウ

之上 トカノチ 中云 言鷹也 俊鷹 シュンヨウ 鷹子 ヨウス 俊鷹 シュンヨウ 鷹の良名也

鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

日次志河狩以川の伊代と云

一 青鷲 セイリウ 言鷹也 一奇鷹 イツキヨウ

一 祝鳩 イサカ 晨風 チンフウ 茅鷲 チヨウリウ 之鷲 シヨウ 俊鷲 シュンリウ 隼風 シュンフウ 風隼

石各隼と其名 鷹隼鷲 其名也

鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

一 黄胞 ワウホウ 黄鷲乃其名也 大小ともいふ

一 羅 ラ 羅と云ふ黄鷲の鳥也 其名も鷹と云ふも鷹乃

廻の鳥也 其名も鷹と云ふも鷹乃

鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

一 金鉈 黄鷲このうけ其名也

一 鷲隼 鷲刺羽 鷲雀 青刺羽 赤刺羽

鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

一 鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

鳥鷹ありて其名も鷹と云ふも鷹乃

もつるり

一 じきくせいの 終つてふに 終つてふに 終つてふに 終つてふに

一 日次乃ききと 是は年中 役とてし 法智の

一 事とて 著ありて 明とて 明とて 明とて 明とて

一 日次終つて 是にありて 是にありて 是にありて 是にありて

たる事也

一 初初うの 終つてふに 事とて 終つてふに 事とて

一 終つてふに 終つてふに 終つてふに 終つてふに 終つてふに

一 終つてふに 終つてふに 終つてふに 終つてふに 終つてふに

しつと 終つてふに

國号ありし 梁山の事

一 世いらり 一 終つてふに 一 終つてふに 一 終つてふに

一 終つてふに 一 終つてふに 一 終つてふに 一 終つてふに

一 終つてふに 一 終つてふに 一 終つてふに 一 終つてふに

一 終つてふに 一 終つてふに 一 終つてふに 一 終つてふに

口行あり

一 唐書とて 梁甲斐國も 終つてふに 終つてふに 終つてふに

宝苑とありし 終七月 終つてふに 終つてふに 終つてふに

か其何の 終つてふに 終つてふに 終つてふに 終つてふに



一 鷲鷹 鷲鷹はも何及びあつく受けしふ  
鷲鷹もくしあふをけの中しといひて  
もみ入又もれも門あふといふ事  
を

一 鷲鷹 鷲鷹はも何及びあつく受けしふ

とふ

一 鷲鷹 鷲鷹はも何及びあつく受けしふ  
今かひあふていふに積のさふも  
あつていふていふていふていふ  
を鷲鷹のいふていふていふていふ

の鷲鷹はも何及びあつく受けしふ

一 鷲鷹 鷲鷹はも何及びあつく受けしふ  
とあつていふていふていふていふ  
八月さうすといふていふていふ  
あつていふていふていふていふ

一 鷲鷹 鷲鷹はも何及びあつく受けしふ  
あつていふていふていふていふ  
あつていふていふていふていふ  
あつていふていふていふていふ  
あつていふていふていふていふ  
あつていふていふていふていふ  
あつていふていふていふていふ

帝の御也

一 鈴骨と云はるは提をさしつらうに事共  
外結多くと云はる骨と云

才四十一

一 鶴山と云はる乃御也

一 野山と云はるは黄子と云はる事

一 別と云はる事御也

一 遠山と云はる事

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 遠山と云はる事御也

一 山をハ山と云ふは廣くせしむし又山を山とせしむ

と廣く云ハ里路と云ふの記し

一 野山を山と云ふは山と云ふは長

閑日らしきと云ふ中ノ山と云ふは山と云ふは長

閑日らしきと云ふ中ノ山と云ふは山と云ふは長

一 雄の敵より雌の記しと云ふは山と云ふは長

一 雌の敵より雄の記しと云ふは山と云ふは長

一 雄の敵より雌の記しと云ふは山と云ふは長

記しと云ふは山と云ふは山と云ふは長

雄の敵より雌の記しと云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 山ハ山と云ふは山と云ふは山と云ふは長

一 谷うへに花の咲くは春の光景なりとて

くくつたよしとて

一 山をしのびてゆくは春の光景なりとて

ゆきつらき山に

一 花の咲くは春の光景なりとて

花の咲くは春の光景なりとて

一 花の咲くは春の光景なりとて

花の咲くは春の光景なりとて

一 花の咲くは春の光景なりとて

一 花の咲くは春の光景なりとて

一 花の咲くは春の光景なりとて

花の咲くは春の光景なりとて

花の咲くは春の光景なりとて

一 花の咲くは春の光景なりとて

花の咲くは春の光景なりとて

春乃日長ありとて

花の咲くは春の光景なりとて

一 花の咲くは春の光景なりとて

花の咲くは春の光景なりとて

一 花の咲くは春の光景なりとて

一 ともなるをさし

一 ことこれ切をみく遊如る者へにありき

一 新の意と云人と入書を別名記也

一 松板に外河志本に居るをよし小島本相と

一 うきくあつるといふ成述をよしのよち

一 所多本或志あり相とよ居るをよし

一 ありると云事ハ意をれ意をゆる事あり

一 きたる成りありき

一 もとより相よりとんじふ意に振らるる相と

一 ありと撰事とありと相とありと撰事あり

一 相事とほりそれととも相事と云

一 ほかききると云人ありき

一 一物なりと云人きん見たりき

一 一物なりと云人きん見たりき

一 一物なりと云人きん見たりき

一 一物なりと云人きん見たりき

一 一物なりと云人きん見たりき

一 一物なりと云人きん見たりき

一 一物なりと云人きん見たりき



一 多きよ其はるの御事とてうと云

一 多しからんはるれはるにへんをへん御事なり

一 たり多成はるけり多成みししふりしとて

多し并あはるれとて

一 多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

しして多と云

一 多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

一 多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

一 多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

一 多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

一 多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

一 多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

多成とて事ハ多成はるあはる多成事入を

こころのゆけらふ山よりかきよとふ又入山よか  
く成りしは程も山志奥へくけ入る

一 稻野 芝野 善哉 野乃 中し、りあふ

一 初一ツもや書子の前 一 所よと云ふ

一 一と書と云ふ紙をゆく投と云ふ

一 一にけ小紙入と云ふあひらくを花と云

一 一と云ふ

一 一 根よりと云ふを 尊を 追切山乃 福と云ふ

一 一と云ふ

一 一 一と云ふ記のふかき紙を 尊と云ふと云ふ

一 一と云ふ

一 一と云ふ横内より記 一と云ふ

一 一と云ふ記の 尊乃 志の 一と云ふ

一 一 一と云ふ紙と云ふ記と云ふと云ふ

一 一 尊師の志と云ふと云ふと云ふ

一 一と云ふ

一 一 一と云ふ山と云ふと云ふと云ふ

一 一と云ふ一方と云ふと云ふと云ふ

一 一と云ふ

一 朝香抄付も一巻と云ハかゝる事也

一 齋乃あつるそ花ねをたこむじさうり所所

一 ありはわらねとせしむと云

一 ちけえと家と云ハ是中らるるれ都方と云也

一 もん香と云ハ能のつま一殿と云は本

一 たられと云あり香九云

一 才字二

一 ちとねと云もと云うねやと云は田事

一 ちう奇小

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 一井と云ねと云ハ兼山と云の物と云は山と云

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 共一齋はと云うと云うねと云は時を

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 ちとねと云はちとねと云はちとねと云は

一 ともやうなるものやあらう 相とほりてあれ  
るをらんくあらかりきよとまや

一 けしむと相きとくんとく物に因ふて成す  
をちくあらうのち頭をみちくあらうの物

一 能乃いふらけりなとまは長野ふんとれあ  
いけきと他あんとりかひく使

一 香車とまは山ふとよて 響れきふふて取  
らう物らとをちくはふはふきふたき

一 のち相とまはちあふて 響れきふふて取  
らう物らとをちくはふはふきふたき

一 接角響響りものさうぬりきふたき  
やいふらう

一 小響れきとらぬりきふたき

一 あらとむるとまはあきけく 草へ入陣と  
逸物然

一 響れきとまはあきけく 草へ入陣と

一 響れきとまはあきけく 草へ入陣と

一 響れきとまはあきけく 草へ入陣と

一 響れきとまはあきけく 草へ入陣と

一 響れきとまはあきけく 草へ入陣と

いぬきうあはむき

一 瑞乃所を急いでいふと云 由家と云 成す

一 一

一 一 幸なる此尾上名市の上り

一 一 魯乃是なりと繩やほくらん

一 一 野々又廣と云と云 於也きつはき

一 一 一

一 一 一

一 一

一 一 一

時相らぬ城と家と云い 一

一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

先物色としのりり色とみくは乃本居人打

あつては城うしてと云送おの終て

一 かもくをせよ八色追落してきる草子よ

宿所をつきの鳥の落とゆるとんて宿所

乃ふふ(きふ土乃上とてい)とまふ城き

一 架ふ城とよと云ハ架ふて響い

ふと極くゆきまふ架ふとよとて前川をうい

かと極く

一 籠安とし八景響れ籠のりく字れ始時ハ

山ういひひのめんとうきやふとらういあり

うれをいりあり

一 一洞(響つと云ハ)是響の角響乃鳥城追落

とらふあまふりきうに大洞入とて是て

り響まかうとく丁ふふまれは響あ

ををきくきく(一)をほのけああ

ゆきうあうりあく大のりらよ響とよ

り響はふてあとき

一 欠金乃響と云ハたうあこらうる時在ま

のりふ欠と續て響よみとゆをらやゆて

響はうとてあしと原きうらうは響あ

一 山く<sup>あつて</sup>る<sup>て</sup>も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>は<sup>は</sup>色<sup>し</sup>紙<sup>し</sup>提<sup>て</sup>り<sup>り</sup>草<sup>く</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>

油<sup>あぶら</sup>り<sup>り</sup>う<sup>う</sup>

一 野<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>れ<sup>れ</sup>鏡<sup>かがみ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>石<sup>いし</sup>り<sup>り</sup>多<sup>おほ</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>小<sup>こ</sup>鳥<sup>と</sup>  
の<sup>の</sup>影<sup>かげ</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>は<sup>は</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>時<sup>とき</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>  
又<sup>また</sup>鳥<sup>とり</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>口<sup>くち</sup>持<sup>もち</sup>乃<sup>の</sup>時<sup>とき</sup>思<sup>おも</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>好<sup>この</sup>む<sup>む</sup>色<sup>し</sup>  
乃<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>しま</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>なり

一 友<sup>とも</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>乃<sup>の</sup>響<sup>こゝろ</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>金<sup>かね</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>多<sup>おほ</sup>く<sup>く</sup>影<sup>かげ</sup>を<sup>を</sup>  
神<sup>かみ</sup>の<sup>の</sup>一<sup>いつ</sup>所<sup>ところ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>事<sup>こと</sup>なり  
考<sup>かんが</sup>へ<sup>へ</sup>響<sup>こゝろ</sup>野<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>れ<sup>れ</sup>う<sup>う</sup>み<sup>み</sup>事<sup>こと</sup>なり  
行<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>なり

一 草<sup>くさ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>る<sup>る</sup>塵<sup>ちり</sup>と<sup>と</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>なり

山<sup>やま</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>ん<sup>ん</sup>鳥<sup>と</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>ん<sup>ん</sup>事<sup>こと</sup>なり  
婦<sup>むすめ</sup>と<sup>と</sup>初<sup>はつ</sup>め<sup>め</sup>なり

一 見<sup>み</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>は<sup>は</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>時<sup>とき</sup>久<sup>ひさ</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>振<sup>ふ</sup>  
と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>志<sup>こころ</sup>の<sup>の</sup>女<sup>をんな</sup>事<sup>こと</sup>なり

一 一<sup>いつ</sup>く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>一<sup>いつ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>日<sup>ひ</sup>詞<sup>ことば</sup>也<sup>なり</sup>一<sup>いつ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>なり

一 小<sup>こ</sup>鳥<sup>と</sup>を<sup>を</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>は<sup>は</sup>角<sup>かく</sup>鳥<sup>と</sup>を<sup>を</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>なり  
小<sup>こ</sup>鳥<sup>と</sup>を<sup>を</sup>提<sup>た</sup>い<sup>たい</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>は<sup>は</sup>小<sup>こ</sup>鳥<sup>と</sup>を<sup>を</sup>提<sup>た</sup>い<sup>たい</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>なり  
其<sup>その</sup>鳥<sup>と</sup>を<sup>を</sup>提<sup>た</sup>い<sup>たい</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>は<sup>は</sup>其<sup>その</sup>鳥<sup>と</sup>を<sup>を</sup>提<sup>た</sup>い<sup>たい</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>なり  
と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>小<sup>こ</sup>鳥<sup>と</sup>を<sup>を</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>なり

此舟よの福々此舟の小舟一丸

めん紙志しぬき人りしをばれ

しし巻乃こまし此舟のぬくち巻

ねんとししぬく人りしはあま

一 幸うれをちを事と花をたると

一 川結し巻と云はるしりし巻と又よ

一 乃西とくを巻と云ふ

一 法巻のせよけりしあふ所ありし巻と云ふ

一 巻と云ふりし巻と云ふ

一 巻と云ふりし巻と云ふ

一 わいぢと云ふし巻と云ふ

一 とし巻と云ふし巻と云ふ

一 宣授とは道ありし巻と云ふ

一 中提少と云ふし巻と云ふ

一 一と云ふし巻と云ふ

一 ねねしと云ふし巻と云ふ

一 得る所ハ沖乗車ふりし巻と云ふ

一 舟車乃水と云ふし巻と云ふ

一 喜の沖門を法代と云ふし巻と云ふ

一 の巻と云ふし巻と云ふ



しるはしこのせしとあつらんをたのむるを  
とつて

郡崎忠南れんしつて

けしつてお小とるわ多らん

一 水乃ま前へ追居くよつて相とるるを

みよとんこ相とる

一 ちのちして捉えあるは高代は家ありと云

なり

一 水乃ま前ありとる草ありしけりうけも相

つとるうけりしと力保とる

一 踏まらうしきさる城をうけ地をた

るしつて

一 ちのちとるはつて一母中ふらとん

たつて

一 龍乃ま前つて言られたる所なり只つて

つてつてつてつて

一 けちとるつてつてつてつて

ちつと捉と云

一 田乃ま前つてつてつてつてつて

捉とるしつて

一 此三箇とてハ 架下盤を 返さゆりて  
一 併一二度的事を云 又 驚きと云 亦 予を  
之を記的と云也

一 多の相と云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云

一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云

一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云

一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云

一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云

一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云  
一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云 一 花を云と云

一 けしきとみきぶ乃と交へしに死本家か

かふ居らるるよしとてとて

一 ろぶり終本あしに居るをねてかきとて

ふいねとてと

一 おきねとすときふ常書又のふゆにけりき

けしとれ終とて

一 きりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり

一 田記とての終のきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり

一 目をとてはるるきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり

事あり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり

一 うんふとてきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり

一 ちりきりきりきりきりきりきりきりきり







人毛とう先忠 朴忠あたる

いふ所をそと <sup>社</sup> 及忠をりあつらふ

神志らひとさゆつく志みり

一 くらふたつおそをうしなうりうて忠きのみ

一 物少宛記とよ

一 ぬきしつとそは青子むりとのきぬ板り

本草乃中紙人志連宛記とよ

一 淡より 淡香日しや 香ゆめり世を河に

一 いきねとそつらふとそは 香より 宛提毛とよ

一 くらふとそ

中四十二

一 小巻の巻紙とらぬし たるハわくもそとや

一 ざい巻とそハこの 鶴巻紙提下とそりて

とら 牛馬相とそは 二巻し へわらねとそは 止す

うら 紙とそは 信巻紙とそは たる 巻師

乃 ともか 也 信巻 ぶし して 信物とそは 上 巻とそ 小

巻とそは

一 ちら 何よりとそハ 小巻 鶴巻とそは 宛とそは 巻

一 師とそは 巻紙とそは 二巻し へわらねとそは

一 小巻乃 巻よりとそは 二巻し へわらねとそは

りしてあつちとを  
多岐をひらきあつちをわきま  
お向くあつちをか  
まもつたふし  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて

一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて  
一 一をかうとて



乃うのきほもしり別れりこの世に  
とあいのうらもと云

一 介勢と云いもあも

一 勢うつことあもきりほふあふあふあ

一 一きりかきりたも

一 こつらとせんおの勢

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり

一 一あふり



一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも  
 一 崎乃多紀をたねわろくともろくとも

一 鷹を狩りし事 美乃るをよ可也



品 啞 口 口 急 如 律 令

右をと柳は書く意野へか付懐よて物也

一 野出時の誦文し事

飯今日天子れ文を唱 歌をたう御行を  
 いてか人のえねアア 新をよと  
 一 野ふしと野より ゆりてましあふ事  
 ありたる意乃 修くくえぬの中よゆい  
 しててら 意くく心つふ心経心経 一返

皮呪之返唱

キヤウヨウサランハツタトセ返唱之皮呪ハ  
是なり

一人の取らず。小執ち事呪を唱ふ。一  
夜乃南の方お向く。アイワカトセ返唱なり  
七日の月やうそをほく。いなりを  
まら。あを。とら。さ。や。根。を。お。し。ま。し。重。く。  
留。め。お。呪。よ。

キヤウヨウサランハツタトセ返唱ハキヤ一  
夜ハ

一 夜ハ別あり

申四十六

一 夜をくし

夏ふひ乃とわく

川をん

一 夜乃きらく

申四十七

一 夜にん

をれて川

一 夜をん

大とた乃のしきまは路をまた一白事取  
りたれのみと入たれのみとくさう傍よの  
一うらむちてふ城たのむきのきく川に  
いりて思ややとゆきたくうつて  
一うらむちのむきのきく川に  
たきよふたてたしむき城立たあてたの  
むきのきく川に傍よの  
一うらむちのむきのきく川に  
くくぶらむれしむきのきく川に  
むきのきく川に

一むらむれは渡大概馬一り日たのみふふ  
とけ掃かしく後と入し流た人取むと  
んとと入し上も下も人一りうらむちを  
しむちたのみふとけとあむとく繩と流た  
一  
一うらむちのむきのきく川に  
むきのきく川に  
むきのきく川に  
むきのきく川に  
むきのきく川に

一 大乃をれ事着るるもや角響大くもや  
あつたれとていひて益也

一 角響のより角響大く一又二人共を細く  
とて兼ふ事うとまをさく一とてつめをたえし

一 小響大のハ一又二人兼ふ事うとほめてとて  
細小のつらうよあひくさく一

一 さいふれ時ハ大の粒もと粒もとたかす  
か厚く一粒子く一頭のよは粒とけ

一 挙て是繩は結をく一めはとれれにおく  
ぬくふや像の時ハ大乃粒もと竹をよ

一 さしとて着紙るく一

一 本繩乃丁法やさる不定長に二人共是より  
長くもれハ大つとじ也本繩乃本ハさんせう

一 のあとて角くさうハ器儀ハ本繩をおとす  
一 さいむじといと粒の粒結をいからう結れ

一 の事とあつり一か一とて結也

一 一は乃とまりハ本繩をりや者のとてく引く  
ゆく響る事れハたのむと紙立ハとたは至也

一 さいふれとれハ粒は横計うとまり  
大乃ハ紙あといちくくさいまれ中へ入て

一 概やと海くはるはも乃くをよき引ては  
 乃ねととゆゆやきもは前よあえむ右  
 一 一とと魚一あよ日  
 一 一とと帝ふりきて玉と云く盤とたいん守  
 一 一とと盤や子初と初よ帝ふ盤とと  
 一 一とと一  
 一 一ととつちてき成え引くは乃くつあよ  
 一 一とと師たつかんを時ハ盤れ板作と見あ  
 一 一とと起しとくを時と起ふあう自然多とと  
 一 一ととははあふき成とと一とと一とと

一 一とと引はうけよと引よとと  
 一 一ととゆととハ多きとととと  
 一 一ととゆとと乃足記とたあとと云名と日  
 一 一とと無名幸黄耳 征鳥 使物 南日 集日  
 一 一とと 黄大 韓唐 輕足 逸大  
 一 一ととかつりと云ハ逆様よ記くはとと  
 一 一ととゆり繩ととと繩は引繩はとと  
 一 一とと声やとと病く大と入付の色ハ青とハあ  
 一 一とと吉相のゆきとたきとといぬとと  
 一 一ととと云よハ病入る大引とと云とと







一 市路はうきとぬ疲らうきしあうき  
大とさし

一 海はうきとぬ疲らうきしあうき

一 あうきとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

をうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

をうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき

一 大とさしとぬ疲らうきしあうき



福至鳴 江戸鳴 吉野 ありてはあはれ

なとや 一はれ 二はれ 三はれ ちとと

入るとき へあを いらく かしく ぶはれを

ふととち 大ゆい ち能 くらを ちのぶ

ふとつち 定らし ちゆ ちけい ちとや

おとちち ちゆちち ちまう ちれ ちとれ

一 磨たつ たられ ちちち ちちち

細くく ちちち ちちち ちちち

一 沈とかく 沈とくを 沈ゆあう かせ サイヤルはし

一 類あう ちちち ちちち ちちち カクハカクハカクハ 推業

上いこい ちちち ちちち ちちち ちちち

くひふたつ 是馬 うま ちちち ちちち

こちちち ちちち ちちち ちちち

ちちち ちちち ちちち ちちち

くらあひい ちちち ちちち ちちち

みさこね ちね 右ね ちちち

かちちち ちちち ちちち ちちち

ちちち ちちち ちちち ちちち

甲とち ちちち ちちち ちちち

ちちち ちちち ちちち ちちち

うぐ衣 木の乃とつひ 衣物 じこ香

よ先香 麻香 衣ぬき 求

ぬきこしき うちまいた うちまいた 何香

青子声 けいこけい のし香 つれ色

服とみ 物敷 毛付 じこ香

あしれい 思ひい ころも とうふ香

あしれい ぬき切 ちかぬ ちかぬ

あしれい 答けい 何いから 何いから

あしれい とうやい ちかぬ ちかぬ

あしれい 次香 ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

あしれい ちかぬ ちかぬ ちかぬ

らんこ んたい んごん りんご

あいのね 金とや 山とや 山とや

金とやとやに 多岐 りしりま 山とや

二重 山とや 山とや 山とや

に聲 貴子にや 力けえ 山とや

まありにや 山とや 山とや 山とや

こななす 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

山とや 山とや 山とや 山とや

那守の境 野守

急し

しあしう

さふさう

えんしう

たうきまのき  
殺氣

しんき

しりて

はくま

はくま

こくら急

こくま

まきあつし

まきあつし

まらまき

かつせう

こくま

くま

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ

まきあ





一 鷹一聯

黃鷹

一 身馬

下崔

又鷹一足

下

一 翼

下

一 鷹

一 鷹

一 鷹

一 犬之惣名

牽黃

黃耳

征鳥

快物

南口

一 未白

黃犬

韓廬

輕足

逸大

一 鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

一 鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

一 鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

一 鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

一 鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

一 鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

一一聯

一足

一鷹

一架

一鷹

一翼

一 梓

一 鷹毛

澤鳥

名

氏

鷹

之事

一 羅

巢

黃

鷹

黃

胞

按

白

按

鷹

白

行

按

鷹

青

鷹

之

歲

曰

鷄

鷹

一 山廻

按

鷹

之

時

云

黃

一 鷓

之

歲

曰

鷓

鷹

鷹

一 鷹

之

名

之

字

之

復

一 角

鷹

母

鷹

弟

鷹

婦

一 兄鷹

男鷹

接

一 鶻

隼

祝

晨風

弟

兄鶻

一 鷹

隼

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

一 鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

一 鷹

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

一 鴉

青鴛

刺羽

鶻

鶻

鶻

鶻

一 鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

一 鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

一 半子

苜胎

半鶻

紫穗

桃花

桃生

替物

蒼鷹

青蒼鷹

赤蒼鷹

韓卷

雪蒼鷹

箭鹿蒼

螺蒼鷹

覆輪蒼

黑蒼鷹

更相鷹

一 右山黑生

太山白生

黃黑生

糸生

鳩生

大黑生

小黒生

藤生

鴨生

紅葉生

凡生

栴生

十取生

大眉白

小眉白

一 臂鷹

野鷹

蛇編

山編

し女鷹

小鶻

一 鷹得く類く字之爭

一 将春 菟菟 政秋 獵冬 又披春 推冬 宿山

泊 停山 宿鳥の 暮の 忘の 思の

一 憐の 下将 芝笛 贗将

一 柴打聲 柝声 菩提声 鳥叫

一 松声 延声 寂聲 遺色

一 惣松 記柄 試免 鳥起 鳥捉

揚上 喰鳥求 座举 捕 鳥捨 圍

開鳥の投步

一 あゝきり取ふ半 多成つり 用意して

将記多家多よ松く寂とくわくくん免

きくくあゝきり多 将る多と少色出

多のわあ魚くくあに家多成多せん小

とを終る大りあをれ又ハおとるまをるは

多りり後必少少小多也 然る行て多

わくく多とくあるまをる多成捉多

少の将多相立相立ん日にあわとせに純捉也

一 山廻と之日五日く使く多をる多なる帰

多あゝいり城とく所んに多しいあはす但

粉をあらうた目紙ぬひくつ雁お入ぬまを  
ろろ湯架とろりしへおまふ成る粉つら放  
こわしを朱のちしむ時片人しるるるす  
粉を片人しるは餅とろりいし火とそは  
忘餅汁かろくおまふとろりしへし想餅と  
くはらるハめろり架ししおまふはそは日乃  
早餅しおろり片くおる目れあると記物  
ろりしふろり片へおまふといふしおまふとそは  
を記繩しと繩を傍と服小使くとろりし  
家乃上ひのひのふろりしとろりし

忘餅と細少とろりしへしろりし  
細極細くし餅と細くろりしと  
次日ろりしといふしとろりしと切り袋ろりし  
を新又水金銭大豆種入し少くを  
ろりし一汁ありしてろりしと粉少してふ  
粉し又忘やうかと少くろりし  
後可  
使也

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically on the right page of an open book. The characters are dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the script.

